令和元年度事業報告

１概要－行幸啓と新型肺炎

［展覧会］　５月に即位された天皇皇后両陛下が９月、記念館を訪れたこと（行幸啓）が、何よりも大きな出来事で、館の歴史の中でも記念すべき一コマとなった。事前視察は５月から始まり、直前までその対応に追われた。

９月１７日、前日の国民文化祭開会式に出席された両陛下が記念館においでになった。それに合わせる形で夏の企画展は「両陛下に會津八一を知っていただこう」と、えりすぐりの名品をそろえ**「八一の逸品」展（７月２日～９月２９日）**を開催。皇室との関わりを示す作品（八一が昭和天皇行幸に思いをはせた歌、上皇さまの立太子礼に詠んだ歌、歌会始の召人としての新年詠出歌などの墨跡）には両陛下も興味深そうに見入っておられた。話題性もあってか、前年度（平成30年）の特別展「中村屋サロン」とほぼ同じ数の入館者を呼び込むことができた。

春は**篆刻家・山田正平（４月２日～６月２３日）**、秋は**特別展**として**陶芸家の人間国宝・富本憲吉（１０月９日～１２月１５日）**に焦点を当て、八一とのかかわりを通して二人の異才の作品と関連資料を紹介した。これまで取り上げることのなかった「篆刻」は、それ自体の珍しさもあって幅広い層の関心を集めた。過去３年の同時期（４～７月）に開いた展示より入館数は多かった。

残念なのは冬の**「八一と酒」展（１月４日～３月２９日）**だ。３月に「酒の陣」もあることだからと相乗効果的なものを期待したが、新型肺炎の広がりのせいで「酒の陣」は早々に中止となり、特に３月（開館２５日間）の入館者の落ち込みはひどかった（一昨年冬比４３％減、昨冬比６１％減の２６３人）。この展示に関連して企画した講演会と、酒蔵見学と八一作品鑑賞を組み合わせたバスツアーも中止せざるを得なかった。県酒造組合に事前に企画内容を紹介して周知に努め、八一ゆかりの酒蔵からは作品や酒器を借りるなどしたのだが、ウイルスの前にはどうすることもできなかった（次ページ以降に各展示についての詳細を記述）。

＜好評価＞展示に対する評価は前年度に比べ高かった（３ページおよび添付のアンケート結果参照）

［八一祭］　書家でもある俳優の松村雄基さんと、新潟大学で書を教える角田勝久准教授の**トークイベント「すがすがしさと優しさ－八一の書と人を語る」（８月１日）**は、１８０人近い来場者という盛況ぶりだった。俳優と大学の先生という組み合わせの意外性もさることながら、二人が八一を語り合うさまは、八一ファンのみならず雄基ファンという記念館にとっては新しい層を引き付け、八一とその書の魅力を印象付けたのではないか。反響も届いた。俳優として舞台公演などに多忙な松村さんのスケジュール次第だが、テーマを変えてまた開きたい。

［体験］　八一の短歌や言葉を彫った石板や木板を置き、来館者にその文字を写し取ってもらう**拓本コーナー**を設けた。ささやかながら来館者の興味を広げる試みとして今後も続けたい。

［普及活動］　**出前講座**は３月に予定されていた２つが「コロナ」の影響で中止になった。出版では、奈良・京都にある八一の歌碑を紹介した冊子**「會津八一歌碑」**を発刊、県内の中学校・高校に送り、奈良京都への修学旅行の際には事前学習に使ってもらいたいと呼びかけた。また、奈良京都へは碑の立つ寺社をはじめ、行政、観光関係機関・団体にも送付。**「写真でたどる會津八一の生涯」**は小中学生の入館者に無料で渡すことを始めた。

［第１３回秋艸道人賞写真コンテストと作品展］　応募点数、応募者数ともに前回を上回った（詳細は６ページ）。入賞入選作品の巡回展は県内・県外合わせて７カ所で開催（詳細６ページ）。

［展覧会名の墨書］　新しく、県書道協会役員から半切の紙に題名を揮毫していただき、展示室入り口に掲げることにした。一つの展示の前半・後半２人の先生にお願いした。アクセントとなり雰囲気が大いに変わった。

２、事業の内容

（ア）展覧会事業　常設展経費 3,456,207 円（30 年度=3,654,921 円=比 5.4%減）。特別展経費 3,620,093 円（30 年度=4,101,869 円=比 11.8%減）。

	30 年度 入館者数	30 年度 開催日数	**元年度 入館者数**	元年度 開催日数	元年度 入館累計
４月	355	20	**377**	25	377
５月	641	26	**815**	27	1192
６月	530	19	**572**	20	1764
７月	723	26	**657**	26	2421
８月	1081	27	**588**	27	3009
９月	677	18	**1082**	26	4091
１０月	810	26	**740**	20	4831
１１月	996	26	**976**	26	5807
１２月	505	15	**584**	13	6391
１月	311	24	**387**	24	6778
２月	532	24	**425**	25	7203
３月	684	20	**263**	25	**7466**
合　計	7845	271	**7466**	284	

元年度観覧料収入=総額 2,050,916 円（特別展 675,816 円　常設展 1,375,100 円）

（イ）展示事業

【特別展】「富本憲吉と會津八一」 －孤高の美の求道者たち－

会　　期：令和元年１０月９日（水）～１２月１５日（日）　開催日数 59 日間
会　　場：新潟市會津八一記念館
入館者数：２，３００人
（前年度＝30.6.28～9.2　「中村屋サロンと會津八一」サロンにつどったアーティストたち　2,219 人）
主　　催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日報社、BSN 新潟放送
協　　力：浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造
後　　援：読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、産経新聞新潟支局
日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局
NHK 新潟放送局、N　S　T、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

奈良県立美術館が所蔵する陶芸家・富本憲吉（1886~1963）の名品を中心に、會津八一との交流と作品を紹介した特別展。平成 24（2012）年に奈良県と新潟市は歴史・文化交流協定を結んだことや、当館がこれまで築いた奈良県との関係から企画された。

富本は、趣味の楽焼から作陶を始めているが、その後独学で研鑽を積み、昭和 30（1955）年に色絵磁器の業績によって重要無形文化財保持者となり、昭和 36（1961）年に文化勲章を受章した。奈良県立美術館には富本の作陶を始めたころの楽焼から晩年の色絵金銀彩まで、生涯をたどることのできる名品を有しており、新潟では初めての展示となった。

富本と八一の関係について残されている資料は乏しいが、若いころから交流があったことは、文献などからも明らかである。八一は大正 13（1924）年刊行の初めての歌集『南京新唱』の挿絵を富本に描いてもらったり、彼に捧げる短歌 1 首を詠んだりしている。一方、富本は陶印「八一」「秋艸堂」「朔」を制作している（現在当館が所蔵）。

お互い奈良を愛し、独学で芸術の道を探究したこと、ともに左利きだったこともあり若い頃は臨書を嫌っていたこと、さらには西洋文化を学び、多大な影響を受けたことなど共通点も多く、結果的に様々な角度から二人の作品を紹介することができた。また、富本のもとで修業し、八一と合作を行った陶芸家齋藤三郎（栃尾市=現長岡市出身）の作品や、本展覧会準備中に見つかった八一箱書きの富本作品も展示した。

過去に当館で特別展を開催した北大路魯山人や川喜田半泥子とは違い、富本憲吉は近年脚光を浴びている陶芸家とはいえないが、アンケート結果を見ると、比較的好評だったようである。来館者からは富本と八一の交流を初めて知ったとの声も複数あった。

同時期には敦井美術館で「富本憲吉とその系譜」展が開催され、お互いに案内告知を図るなど連携を図った。

【企画展】＝記念館自主企画

① 生誕 120 年　天才　山田正平の宇宙

会　　期：平成３１年４月２日（火）～６月２３日（日）　開催日数 72 日間。**（簡易図録発行）**
入館者数：１，７６４人（前年度＝春「文人と詩書画一致のモダニズム」1,364 人）

新潟市中央区古町出身で、會津八一が「天才」と認めた篆刻家・山田正平（1899~1962）の生誕 120 年にあわせた企画展。正平は確認できるだけでも八一のために 42 顆（個）の印を刻しており、当館ではそのうち 25 顆を所蔵している。八一の墓碑銘の原本も正平によるもので、当館で所蔵している。今回は正平のご遺族のご厚意により、正平の篆刻や書画・刻字をはじめ、八一との関係を示す作品資料などを借用、展示した。また、新潟大学の角田勝久准教授に紹介してもらい、地元に残る正平の刻字作品も借用した。当館では、山田正平に焦点を合わせた展覧会は初めてで不安もあったが、アンケート結果を見ると比較的好評で、昨年度の同時期よりも多くの来館者があった。八一に関心のある来館者には待望の展覧会だったようである。正平刻の印章は壁面に展示したこともあり、来館者からは見にくいとの声があったため、今後の展示では工夫が必要である。

② 會津八一　書の逸品

会　　期：令和元年７月２日（火）～９月２９日（日）　開催日数 79 日間。**（簡易図録発行）**
入館者数：２，３２７人（前年度＝秋「奈良大和路の美　写真家・小川光三の仕事と飛鳥園」2,659 人）

この展示では国民文化祭にちなみ、新潟の文化人を代表する八一の数ある作品の中から選りすぐりの墨蹟を集めた。新潟市長室にある《聴無聲》の複製、ＢＳＮ新潟放送所蔵の《溪山深秀》、新潟県護国神社にある《山河慟哭》などがその一例だ。ほかに、八一が大和路の古仏や風物を詠じ、ひらがなで揮毫した墨書と、やはり古都の風景や仏像を撮り続けた写真家入江泰吉の作品を組みあわせて紹介する「大和路コーナー」も設けた。さらに、昭和天皇が巡幸の際新潟に立ち寄られたときに八一が詠じた短歌や歌会始の召人として詠じた短歌の墨蹟も展示。9 月 17 日、来館された天皇皇后両陛下には、短時間ではあるものの、八一の書をご覧いただいた。その後、18 日～29 日の 1 日平均の入館者数が 46 人。それ以前は 1 日平均 26 人。この増加は、両陛下がおいでになったことによる影響のほか、会期終盤、複数の団体見学があったことが要因と考えられる。

③ 會津八一と酒 ～ 一杯一杯復一杯～

会期：令和２年１月４日（土）～ ３月２９日（日） 開催日数 74 日間。**（簡易図録発行）**

入館者数：１，０７５人（前年度＝冬「八一を知る 八一がわかる」－そのマルチな業績と人生－同時開催 第 12 回写真コンテスト入賞入選作品展 1,603 人）

八一が揮毫した墨蹟には、酒を題材にした中国の漢詩や自詠の俳句、短歌が多く見られ、八一の文字が用いられている銘柄の清酒もある。本展では、八一と縁のある県内外の蔵元に伝わる八一の作品や文化人の書画および酒器類など、八一と酒に関する資料も展示し、酒文化に対する八一の眼差しや、酒を愛し酒に酔いしれた八一の素顔なども紹介した。会期中、有料入館者を対象に、作品を出品して下さった酒造会社 4 社の酒のほか記念館グッズの当たるくじ引きを実施。また、八一作品の中の「酒の字」を探し当てるクイズは来場者からことのほか喜ばれた。展示で八一と酒との接点が意外に多いことを知ってもらうことができたためか、来館者アンケートには「興味深い展示」「酒好きならではの楽しげな様子が伝わり自分も楽しめた」という感想が見られた。

２月末から新型コロナウイルス感染拡大し始めたのを受け、予定していた酒蔵巡りツアーや講演会を中止した。また来館者が昨年この時期の企画展よりも激減するなど、感染騒ぎには多大なる影響を受けた。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（○は好評、 △は不評）＝回答者数 717 名 （回答率 9.6%）

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
富本憲吉と會津八一	○ 88%	△ 10%	○ 86%	△ 13%	○ 97%	普通 3%
山田正平の宇宙	○ 91%	△ 7%	○ 92%	△ 7%	○ 97%	普通 2%
書の逸品	○ 93%	△ 6%	○ 92%	△ 8%	○ 98%	普通 2%
八一と酒	○ 91%	△ 7%	○ 90%	△ 9%	○ 94%	普通 5%
合計	○ 91%	△ 7%	○ 90%	△ 9%	○ 97%	普通 2%

（接客に対する評価）良い 77% 普通 22% 悪い or 無回答１％

（主な来館入館者）※当館理事、評議員は除く

・4 月＝山田正平の孫・山田正氏、日報論説委員長森澤眞理氏、旧職員・北畠桂子氏（6 日）、早大博物館助手徳泉さち氏と椋橋彩香氏、全国良寛会会長長谷川義明氏（11 日）、新潟県立文書館副館長本井晴信氏（13 日）、八一の姪の義嫁鈴木紀子氏（19 日）、書家菊田竹子氏（21 日）、ぎゃらりー８１吉村光氏、書家柳沢魁秀氏（26 日）、山田正平の孫・山田潤二氏（29 日）

・5 月＝書家小林畦水氏、本多和宏先生（１日）、やまだみつる氏（2 日）、新潟県歴博研究員西田氏（3 日）、書家伊藤省風氏（5 日）、書壇院江川蒼淵先生、和田紫陽先生、横山マリ子先生（6 日）、新潟県秘書課と文化振興課職員、ＡＬＳＯＫ顧問・田村元人氏（8 日）、「楽篆」三圭社、三井雅博氏（11 日）、新潟絵屋田代氏（12 日）、書家佐藤奎玉先生、丹羽芝水先生、田中藍堂先生、新潟市山口誠二氏（19 日）樋口記念館中島榮一氏（23 日）、新潟大学旭町展示館館長橋本博文氏（29 日）熊本大学・神野雄二氏（30 日）東京国立博物館学芸部長富田淳氏、山田正平研究所分室長・岩切誠氏、県書道協会副会長・今井昭夫氏、山田正氏、書道博物館鍋島氏（31 日）

・6 月＝鑑定委員高島義彦氏、加藤僖一氏（2 日）山田正平の孫副島里果氏、BSN 竹石会長（6 日）、県警警備課（12 日）、書家今井昭友氏、絵手紙講師谷雅子氏（14 日）、書家石飛博光氏（18 日）、小三社長小山雅征氏、薄田東仙氏（23 日）県文化振興課、秘書課(26 日)、県警（27 日）

・7 月＝書家山田修也氏（2 日）カメラマン渡辺康文氏（5 日）、奈良鹿鳴荘永野氏、県文化振興課増田氏（9 日）全国良寛会副会長小島正芳氏（10 日）、写真家斎藤日出子氏、村尾誠一東京外国語大学大学院教授（11 日）宮内庁、県警（17 日）、書家原奈緒美氏（20 日）、警察庁公安課、神奈川県警、新潟県警警備課、捜査課（23 日）、声楽家小川恒子氏、日報大塚氏、テレビ朝日コメンテーター川村晃司氏（27 日）、警察庁警備課長（3 日）、俳優松村雄基氏（31 日）

・8 月＝新潟高教諭小川貴史氏夫妻（2 日）、画家池田美弥子氏（9 日）、寄贈者山田敬子様（12 日）、県警サイバー担当（21 日）、県警、県庁広報課（23 日）警察庁、皇宮警察本部長、専修大松尾治氏(27 日)、

・9 月＝文信堂西村会長（1 日）江戸千家川上宗雪氏、小笠原清氏、小林三四郎氏（9 日）、書家三膳春雪氏（10 日）花角知事、中原市長（12 日）、萩生田文部科学大臣、宮田文化庁長官ほか多数（16 日）、天皇・皇后両陛下（17 日）、滋賀高校教師中川英樹氏（21 日）、新津美術館館長横山秀樹氏、書家佐藤光堂氏（22 日）、四宮章夫弁護士（26 日）

・10 月＝奈良県立美術館飯島礼子氏、前崎信也氏、敦井美術館土田氏、中村屋事務長小暮晋太郎氏、絵手紙協会山田氏、編集長鹿間氏（8 日）、柳原睦夫氏（10 日）、陶芸家伊藤赤水氏（12 日）、山本修巳ご夫妻、新大高橋姿学長（19 日）、江戸千家家元川上宗雪氏、中野宗順氏（20 日）、東大寺筒井寛昭・英賢父子、万代島美術館学芸員池田氏（25 日）、元新潟県立図書館館長安藤哲也氏（27 日）

・11 月＝京都工芸繊維大教授並木誠士氏（8 日）、BSN 中津川英子氏、日報高津氏（14 日）、キーンセンター吉田真理氏（28 日）、新潟市歴史文化課長谷川伸氏、筑波大学助教田中友香理氏、東京大学杉山巖氏、北方文化博物館伊藤瑛子氏（30 日）

・12 月＝日報ＯＢ吉井清一氏、梼木吾郎氏（6 日）、棟方志功研究家石井頼子氏（14 日）、東京国立近代美術館大賀典子氏（15 日）

・1 月＝割烹大丸櫛井隆一氏（4 日）、県立図書館奥山智靖氏、北方博物館田中氏、木工芸人間国宝須田賢司（5 日）、石本酒造取締役杜氏生産本部長・竹内伸一氏、小説家原田マハ氏（8 日）、笹祝酒造会長笹口孝明氏（12 日）、牧野京子・株式会社ＳＥＳＳＡデザイナー、考古堂柳本雄司氏（19 日）、後藤道人サッポロ関信越　本部新潟統括支社長付（21 日）、県美術家連盟眞田景風氏（26 日）
・2 月＝食文化研究家上原みゆき氏（8 日）、八栗寺住職夫人新見靖子氏（9 日）、平安堂中村正平氏（20 日）、寄贈者原田玉栄氏（24 日）、高橋与兵衛胎内市美術協会会長（26 日）、大倉宏氏、吉沢久子様親族（27 日）
・3 月＝日報高内小百合氏、秋艸会会員篠田孝子氏（3 日）、市島酒造、市島健二氏と圀子氏（12 日）

（ウ）講演会事業

【記念館自主企画】

①八一祭記念講演会（有料　500 円）
テーマ：「すがすがしさと優しさ」俳優：松村雄基氏　八一の書と人を語る
聞き手角田勝久氏（新潟大学准教授）
日　時：令和元年８月１日（木）　午後２時～３時半
会　場：日報ホール
入場者：１７６人
松村氏は、八一のペン字の文字は「滞りがなくすがすがしさを感じ」、「毛筆のゆったりとした、特に縦の線に魅了された」などと語った。

②特別展記念講演会　1（有料　500 円）
テーマ：「追想・富本憲吉先生～オマージュとして」
講　師：柳原睦夫氏（陶芸家・大阪芸術大学名誉教授）
日　時：令和元年 10 月 11 日（金）午後２時～３時半
会　場：日報ホール
入場者：７７人
柳原氏は、奈良－東京－京都と居を移しながら作陶活動を続けた富本の人となりと白磁や色絵といった富本の幅広い作風を、師の思い出とともに語った。

③特別展記念講演会　2（有料　500 円）
テーマ：「富本憲吉と京都」
講　師：並木誠士氏（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長）
日　時：令和元年 11 月 8 日（金）午後２時～３時半
会　場：日報ホール
入場者：７２人
並木氏は、京都の美術工芸の歴史と変遷を、富本憲吉の業績を絡めながら語った。

④企画展関連　第１回文芸講演会（有料　500 円）
テーマ「山田正平の魅力」
講　師：富田淳氏（東京国立博物館学芸企画部長）
日　時：令和元年 5 月 31 日（金）午後２時～３時半
会　場：日報ホール
入場者：９８人
富田氏は日本と中国における書の歴史をたどりながら、正平の印の特徴などを語った。

⑤企画展関連　第２回文芸講演会（有料　500 円）
テーマ：「奈良の八一」
講　師：村尾誠一氏（東京外国語大学大学院教授）

日　時：令和元年７月 11 日（木）午後２時～３時半
　村尾氏は、会津八一が奈良を舞台に詠んだ「奈良歌」を、近代短歌としての特質という観点から説いた。
会　場：日報ホール
入場者：９５人

⑥企画展関連　第３回文芸講演会「ふるさとに酒あり食あり笑顔あり」＝**以下の内容で企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止**
　＜日時：令和２年３月 10 日（火）午後２時～３時半、講師：上原みゆき氏（食文化研究家）、会場：日報ホール、有料 500 円＞

⑦企画展関連　にいがたの酒蔵を巡る日帰りバスツアー＝**以下の内容で企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止**
　＜日時：令和２年３月５日（木）午前 10 時～午後６時、コース：會津八一記念館・にいがた文化の記憶館企画展見学⇒今代司酒造にて見学⇒港食堂（ピア万代）にて昼食⇒笹祝酒造にて酒蔵と笹口家所蔵八一作品の見学⇒メディアシップ、新潟駅、定員：20 名（23 名の応募あり）、有料 5000 円＞

（エ）普及活動事業
①作品解説会
○新潟市會津八一記念館企画展＝講師：喜嶋、湯浅学芸員
　企画展会期中　第２、４日曜日　午前 11 時～正午
　特別展会期中　毎週土・日曜日　午前 11 時～正午
②　出前講座＝その他の団体主催による講演
＜令和元年＞
◇　６月　８日（土）　講演「會津八一の詩心～短歌と漢字とひらがなと」
　　主催：秋葉区荻川コミュニティー振興協議会
　　会場：荻川コミュニティーセンター　　講師：高岡事務長 50 人
◇　６月１２日（水）　講演「八一を知る」
　　主催：亀田福寿大学　会場：亀田市民会館　　講師：喜嶋学芸員 50 人
◇　９月　７日（火）　講演「古都礼賛　～會津八一が「酷愛」した奈良大和路の美～」
　　主催：フェノロサ学会　会場：大津市歴史博物館講堂　　講師：喜嶋学芸員 90 人
◇　９月２１日（土）　講演「古美術写真の革命と會津八一」
　　主催：フェノロサ学会　会場：大津市歴史博物館講堂　　講師：湯淺学芸員 90 人
◇１２月１３日（金）講演と体験「會津八一について/ペン字体験」
　　主催：中条會津八一会　会場：胎内市立中条小学校　　講師：清水文博氏
　　（新潟大専任講師）
　　喜嶋学芸員 70 人
＜令和２年＞
◇　１月２０日（月）　講演「會津八一入門」
　　主催：西新潟オープンカレッジ　会場：小針青山公民館　　講師：湯淺学芸員 90 人
◇　２月２２日（土）講演「八一と写真家」－大和路に魅せられて－
　　主催: 荻川コミュニティー振興協議会生涯学習部
　　会場：荻川コミュニティーセンター　　講師：喜嶋学芸員 44 人
※胎内市高齢者大学（3月3日、乙交流館）と、さわやか市政トーク便（3月19日、新潟市中央区サンシャイン青山自治会）での講座は、いずれも**新型コロナウイルス感染拡大のため中止。**

③所蔵品貸出展覧会
・「-信仰と美の出会い-　棟方志功の福光時代」　所蔵品３点貸し出し
　平成 31 年３月 29 日～5 月６日（月祝）　　鹿児島市立美術館
　令和元年７月 27 日（土）～9 月 23 日（月祝）　　南砺市立福光美術館
　令和元年９月 28 日（土）～11 月 17 日（日）　　奈良県立万葉文化館

③　第 12 回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品　巡回展

	会場	開催期間	備考
1	奈良県立図書情報館	4 月 23 日～5 月６日	入賞入選 30 点

2	中村屋サロン美術館	5 月 18 日～7 月 15 日	入選入賞 30 点
3	いかるがホール（奈良県斑鳩町）	7 月 21 日～8 月 10 日	入賞作品７点
4	三千院	8 月 13 日～25 日	入賞作品７点
5	高田まちかど交流館	9 月 4 日～16 日	入賞７点、複製昨比
6	高松市市民活動センター	10 月 2 日～30 日	入賞入選 30 点、複製作品
7	胎内市産業文化会館	11 月 8 日～10 日	入賞入選 30 点

⑤出版関係

・八一往復書簡集「雁魚来往」第７集の刊行
　編者：雁魚来往研究会（近藤悠子氏、角田勝久氏）
　発行：會津八一記念館
　形状：Ａ４判　108 頁
　収録：會津家の人々（八一の両親及び兄友一一家、八一の妹櫻井庸・政隆一家）との往来書簡の読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載。

⑥その他

・博物館実習受け入れ
　期間：令和２年１月１２日（日）～１８日（土）
　学生：３人＝　新潟大学現代社会文化研究科　社会文化専攻 1 年生
　　〃　　教育学部学校教員養成課程学科教科教育コース美術教育専修 4 年生
　　〃　　人文学部人文学科西洋言語文化学プログラムロシア言語文化専攻 4 年生

（オ）学習講座（参加者負担）

・會津八一の歌を読む会　講師：若月忠信氏（文芸評論家）
　砂丘館　毎月第 1 土曜日　受講者１４人

（カ）イベント

「會津八一の歌を映す」第１３回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,930,806 円）

・公募期間　4 月から 11 月（作品搬入 11 月 3 日～14 日）
・応募点数　152 点
・応募人数　100 人（県内６６人　県外３４人）
・審査委員　淺井愼平（委員長）、若松保広、和泉久子氏の３氏
・審 査 会　12 月 9 日（月）　14 時～17 時　メディアシップ　６階
・審査結果　秋艸道人賞に新潟県北区の安達淳二さん
　　奨励賞は６点（県内２人、県外４人）、入選は 23 点　（県内 17 人）
・記者発表　12 月 10 日（火）　午前１０時～
　　新潟県庁内の県政記者クラブ　淺井委員長、高岡事務長
・授 賞 式　作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
　　令和元年 2 月 9 日（日）午後 2 時～4 時　　ホテルオークラ新潟　参加人数 67 人
　　祝賀会（会費制）　　午後 4 時 30 分～6 時 30 分　　ホテルオークラ新潟　参加人数 54 人

（キ）鑑定会　（経費 220,792 円）

　春の部　令和元年 6 月　2 日（日）　　総点数 11 点　認定数　　9 点　　収入 380,000 円
　秋の部　令和元年 11 月 16 日（土）　　総点数　8 点　認定数　　5 点　　収入 230,000 円

（ク）新収蔵品　合計１９３点

　〇寄贈　會津八一の墨蹟　　24 点
　　會津八一書簡　　164 通（櫻井家宛て書簡）
　　八一の写真　　３点

諸家書簡　　２点

（ケ）販売活動

・「学規」割引セール　実施期間令和元年度（元年 4-5 月、2 年 2-3 月）
額装 4 点　未表装 4 点　色紙 9 点　　販売合計 96,680 円

（コ）広報活動

①新聞

〔新潟日報〕　記事＝展覧会紹介、講演会募集、特集など１０７回（平成 30 年度＝記事 123 回）
広告＝朝刊 65 回（平成 30 年度＝85 回）、おとプラ 46 回（同 32 回）
内訳　複製学規 15 回（同 33 回）、展覧会 92 回（同 84 回）、写真コンテスト 4 回

〔毎日新聞〕　記事＝1 回

②テレビ、ラジオ

〔ＢＳＮ新潟放送〕

特別展「會津八一と富本憲吉」（１０月９日～１２月１５日）

・テレビ告知　前売り券販売期間中（９月６日～１０月８日）１５秒　８７本
開催期間中（１０月９日～１２月１５日）　１５秒　２２５本
・ラジオ告知　開催期間中（１０月９日～１２月１５日）　２０秒　１０２本
・ラジオ出演　湯淺学芸員（１１月４日８時２５分～「はや・すた」生放送）
・テレビニュース
１０月８日（火）　ゆうなび（１８時１５分～１９時）内＝開場式と内覧会の模様
１０月９日（水）　朝ニュース＝前日に行われた開場式の模様と会場内の様子
・ＢＳＮホームページ　イベントページで紹介（９／６～１２／１５）

③市報にいがた

展覧会、講演募集＝８回

（サ）学校団体見学

22 校 554 人＝小学校４校、中学校１６校、高校２校
（H30 年度＝25 校 415 人＝小学校 2 校、中学校 21 校、高校 2 校）

４月２４日　福島北塩原第一中 4 人
２５日　福島若松第 5 中 5 人、會津北中学校 6 人
４月２６日　新潟市立宮浦中 4 人、岩室中学校 4 人
５月　８日　新潟市立亀田中 38 人
１０日　新潟市立関屋中 4 人
１５日　新潟市立金津中 6 人
１６日　新潟市立五十嵐中 27 人、大形中 10 人、上山中 4 人
１７日　新潟市立坂井輪中 41 人、東京学館新潟高 43 人
２１日　新潟市立小針中 43 人
６月１９日　清心女子高 55 人
２０日　新潟市立木戸小 19 人
７月　９日　新潟市立木戸小 30 人
９月２０日　長岡市立上川西小 66 人
９月２７日　新潟市立中之口中 10 人
１０月２４日　新潟市立五十嵐中 73 人
２９日　新潟市立下山中 8 人
１２月１３日　新潟市立真砂小 54 人

※学校数は前年度より減ったが、児童生徒の入館数は３３%増加した。